

第6節 美術

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

- ・ 中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説（美術編）及び埼玉県中学校教育課程編成要領を踏まえ、学習指導・評価計画を作成する際の参考となるよう、美術科における指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。
- ・ 教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことをねらい、「学校教育目標の実現をねらった教育課程の編成、適切な実施・評価、必要に応じた改善」の一連のサイクル（カリキュラム・マネジメント）を示している。
- ・ 「学びに向かう力、人間性等」には、「主体的に学習に取り組む態度」として、観点別評価を通じて見取ることができる部分と、観点別評価や評定にはなじまず個人内評価を通じて見取る部分があるとされていることを受け、個人内評価に対する考え方を示している。

2 取り上げた内容

第1 本資料の活用について

第2 美術科における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 美術科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について
- 3 「造形的な見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて
- 4 美術科における「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の指導と評価について
- 5 観点別学習状況の評価の観点について
- 6 個人内評価の扱いについて

第3 題材の指導と評価の計画及び改善

- 1 題材計画の作成と評価及び改善の考え方
- 2 題材の指導計画、評価計画作成上のポイント
- 3 題材の指導と評価の計画

第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

- 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方
- 2 具体的な学習評価の方法及び記録の方法
- 3 題材の指導・評価計画

第5 美術科における学習評価の総括例

- 1 題材における観点ごとの評価の総括例
- 2 学期末、学年末における観点別学習状況の評価及び評価の総括例

3 本資料の活用に当たって配慮すること

美術科の目標達成を通して一人一人の生徒の成長を図るためには、学校の特色や生徒の実態、学校教育目標等を踏まえた題材開発や指導方法の工夫改善と充実が求められる。本資料の指導・評価計画例は、そのための一助として活用いただきたい。また、目標に準拠した評価を適切に行うためには、美術科のねらいや育成する資質や能力、学習評価の在り方と評価方法などについて改めて確認することが肝要である。本資料では、それらについて順序立てて改めて考えていくとともに、指導・評価に焦点を当てた授業の事例を取り上げて解説する。

4 学力・学習状況調査等の活用

美術科においては、県学力・学習状況調査の結果から、関連項目を把握し、支援することができる。例えば、帳票40の結果からプランニング方略が低い生徒には、表現活動を行う際は計画性を重点的に支援できるようにする。また、自己効力感が低い生徒には、生徒同士がお互いの表現を認め合える授業づくりや、教師の肯定的な声掛けで自己効力感を高める支援を行う。このように生徒のつまずきの原因を把握し、個に応じた指導・助言を行うことが大切である。

指導計画作成の留意事項

編成要領（編 P100）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示している。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 「〔共通事項〕の指導」の視点
- (7) 「スケッチの活用」の視点
- (8) 「映像メディアの活用」の視点
- (9) 「共同で行う創造活動」の視点
- (10) 「創造性を尊重する態度の形成と知的財産権や肖像権」の視点
- (11) 「事故防止と学習環境の整備を図る」視点

第2 美術科における学習指導と評価

1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

美術科では、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」を育成することを目指している。そして、この育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している。

美術科 教科の目標 (解 P 9 参照)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 美術科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について

- ①「知識及び技能」が習得されること、②「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、③「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
- 必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。題材など内容や時間のまとまりの中で、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進める。
- 「深い学び」の視点に関しては、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげる。
- 表現及び鑑賞の活動を通して、生徒一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習が充実するようにする。

3 「造形的な見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて

「造形的な見方・考え方」とは、表現及び鑑賞の活動を通して、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことであると考えられる。生徒がどのような意味や価値をつくりだしているのかを理解できるようにするためには、例えば、生徒が授業中に様々な考えや思いをつぶやいたり、説明したりする場面において、教師が共感的に捉えるとともに、それらを共有することが大切である。

4 美術科における「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の指導と評価について

「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」は、観点別学習状況の評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」に属しており、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価していく。これらは、学びの中で相互に関わり合いながら立ち現われるものとして考えられ、自らの学習を全く調整しないで粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自ら学習を調整する姿は、一般的ではない。また、評価においても作品や作品票からだけでなく、観点別学習状況の評価になじまない「感性、思いやり」の部分は、生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し、生徒に伝えることが大切である。

5 観点別学習状況の評価の観点について

5-1 学習評価を実施するまでの流れ（評価規準作成手順）

- ① 学習指導要領に示された美術科の目標を確認する。（P129 第2の1を参照）
- ② 文部科学省通知に示された「美術科の評価の観点及びその趣旨」を確認する。（同項5-2、3を参照）
- ③ 学習指導要領に示された美術科の目標を踏まえ、学校・生徒等の実態を明確化する。
- ④ 学習指導要領解説を参考にし、学校・生徒等の実態を考慮して題材及び題材の目標を設定する。
- ⑤ 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。（同項5-4参照）
- ⑥ 題材ごとの評価規準を作成する。（同項5-5参照）
- ⑦ 指導と評価の計画を作成する。（評価場面や評価方法等を計画する）
- ⑧ 評価規準に達しない生徒への手立てを設定する。
- ⑨ 授業を行い、評価結果などから観点ごとの総括的評価を行う。

国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』参照

5-2 美術科の評価の観点及びその趣旨について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

5-3 学年別の評価の観点の趣旨について

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年		
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・意図に応じて表現方法を工夫して表している。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
第2学年及び第3学年		
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5-4 「内容のまとめりごとの評価規準」の作成について

「内容のまとめりごとの評価規準」は、学習指導要領に示された美術科及び各学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、以下の手順を参考に作成することができる。

まず、①美術科の「内容のまとめり」（解 P51参照）と「評価の観点」との関係を確認し、次に②観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

【第1学年における内容のまとめりごとの作成例】

① 美術科の「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

「A表現」(1)ア…思考力、判断力、表現力等に関する内容 (2)ア…技能に関する内容
「B鑑賞」(1)ア(7)…美術作品などに関する鑑賞の内容
〔共通事項〕(1)ア、イ…知識に関する内容

② 観点ごとのポイントを踏まえ「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」は、〔共通事項〕(1)アやイから作成する。
- ・「技能」は、「A表現」(2)から作成する。
- ・文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。

○「思考・判断・表現」のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・「思考・判断・表現」は「A表現」(1)アから作成する。 ・発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力として「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考える」ことなどについて留意しながら評価する。 ・鑑賞の指導内容は、ア美術作品などに関する鑑賞、イ美術の働きや美術文化に関する鑑賞かを明確にする。 ・文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している」とする。
○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的に学習に取り組む態度」は、当該学年の観点の趣旨と「A表現」を踏まえて作成する。 ・文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～しようとしている」とする。

【第1学年における内容のまとめりごとの評価規準例】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ・材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。 ・材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の学習活動に取り組もうとしている。 ※必要に応じて学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。

5-5 題材の評価規準の作成について

題材の評価規準の作成に当たっては、美術科及び各学年の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」等の考え方を基に「題材の評価規準作成のポイント」(参 P44参照)を参考にしながら作成する。その際、身に付ける資質・能力や学習活動、扱う材料・用具等を考慮し、題材に即して具体的に作成していく。

【題材の評価規準作成のポイント】

「知識・技能」	
「知識」	「技能」
<ul style="list-style-type: none"> ・表現や鑑賞の場面において、学んだ知識を生かして、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるようになるなど、単に暗記することに終始するような知識ではなく、美術の学習の中で生きて働く知識として実感的に理解した実現状況の評価する。 ・題材の評価規準は、[共通事項] (1)について、学習指導要領の「2内容の取扱いと指導上の配慮事項」の[共通事項]の取扱いと題材との関連を考慮しながら、「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりすることで作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能は、制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって表れるものであり、そのため制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の創造的に表す技能の高まりを読み取る。 ・題材の評価規準は、「A表現」(2)の内容を基に題材との関連を考慮しながら、「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりすることで作成する。
「思考・判断・表現」	
<ul style="list-style-type: none"> ・発想や構想は、制作が進む中で徐々に具体的な形になり、更にそこから深まることが多い。そのため制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の発想や構想に関する資質・能力の高まりを読み取る事が大切である。 ・題材の評価規準は、「A表現」(1)の内容を基に題材との関連を考慮しながら、「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりすることで作成する。 ・題材によっては、鑑賞的な活動が位置付けられていても、それが発想や構想に関する学習を深めるための活動であったり、主体的に学習に取り組む態度を高めるための活動であったりすることも考えられるため、活動のねらいを確認するなど評価規準の設定には留意する必要がある。 ・題材の評価規準は、「B鑑賞」(1)の内容を基に題材との関連を考慮しながら、「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりすることで作成することができる。 	

「主体的に学習に取り組む態度」

- ・題材の評価規準は、題材の内容に応じて、学年の「観点及びその趣旨」との関連を考慮しながら、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりすることで作成する。
- ・題材において評価に用いるときには、題材のそれぞれの時間の学習活動に該当する「知識・技能」、「思考・判断・表現」の題材の評価規準と対応させて、より具体的に生徒の「主体的な学習に取り組む態度」における実現状況を見取ることが大切である。

【題材の評価規準設定例】

内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年			
森に棲む生き物たちの物語 （二〇三ページ） 「表現」	<p>知生き物たちの体の形や動勢などを捉え、造形的な特徴などを基に、見立てたりして全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技ダンボールやカッターなどの生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p>	<p>発生き物たちを見つめ感じ取った体の動勢や生命感、ダンボールの特徴などを基に主題を生み出し、生き物たちの物語との関係などを考え、写真での構図のつくり方や撮影方法を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑作品から造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態表美術の創造活動の喜びを味わい主体的に生き物たちの美しさや生命感などを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑美術の創造活動の喜びを味わい主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
絵を見比べてみよう （二〇三ページ） 「鑑賞」	<p>知立体感や遠近感、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや和風や洋風の違いなどを理解している。</p>	<p>鑑日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態鑑美術の創造活動の喜びを味わい主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を広める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
第2学年及び第3学年			
いいね！ 日本の暮らし （二〇五ページ） 「鑑賞」（第二学年）	<p>知色味の明るさ、鮮やかさなどを基に、色彩を文化的な視点で捉えることを理解している。</p>	<p>鑑日本の受け継がれてきた色彩豊かな伝統色の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態鑑美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日本の色彩文化や伝統色についての見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>
心のうつわ （二〇七ページ） 「表現」（第三学年）	<p>知空間の効果、量感や動勢などを捉え、造形的な特徴などを基に、見立てたり心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技陶土やへらなどの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。</p>	<p>発自分を見つめ、心和むイメージや形を単純化したり、強調したりしながら主題を生み出し、陶土の特徴などを基に塊や量を考え、周囲の空間を生かし、自分のイメージを豊かに立体で表現する構想を練っている。</p>	<p>態表美術の創造活動の喜びを味わい主体的に塊から感じる存在感や、形から感じる動きなどから考えたことを基に構想を練ったり、自分の表現意図に合う方法を工夫したりして表す表現の学習活動に取り組もうとしている。</p>

※ 例示した題材の内容は（編 P103～）を参照。それ以外の題材の内容は、（参 P41～）を参照

※ **知**＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、**技**＝「知識・技能」の技能に関する評価規準、**発**＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、**鑑**＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、**態表**＝表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準、**態鑑**＝鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。

6 個人内評価の扱いについて

「学びに向かう力、人間性等」には、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができる部分と、観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価等を通じて見取る部分がある。

個人内評価の対象となるものについては、日々の教育活動等の中で生徒に伝えることが重要である。特に、「学びに向かう力、人間性等」のうち「感性や思いやり」などで一人一人のよい点や可能性などについては、制作中の助言や作品カードへのコメントなど積極的に評価し生徒に伝え、学習したことの意義や価値を実感できるようにすることが重要となる。

第3 題材の指導と評価の計画及び改善

1 題材計画の作成と評価及び改善の考え方

- ・ 題材の指導計画の作成に当たっては、まず、学習指導要領及び教育課程編成要領を確認する。次に、学校教育目標や生徒の実態、地域の特性、使用教科書などを考慮して作成された年間指導計画を踏まえ、育成を目指す資質・能力である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」や、生徒の実態から題材を設定し、題材の目標を明確にすることに留意する。また、作成の際は、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための改善の視点にも留意する。「主体的な学び」については、見通しや振り返り、「対話的な学び」については、教師と生徒、生徒同士、地域の方との対話等、「深い学び」については、「造形的な見方・考え方」を働かせることが改善の視点となる。
- ・ 題材の評価計画の作成に当たっては、まず、題材の目標と評価規準が表裏一体となるように留意する。次に、題材の指導計画において明確にした題材の目標と対応させて題材の評価規準を明確にし、育成を目指す資質・能力を発揮する生徒の姿をイメージしていく。また、1単位時間における学習活動のプロセスごとに評価する評価規準の観点を振り分けて作成する。評価方法については、生徒の行動の観察、生徒との対話、生徒の表現や記録の読み取りなど、必要性、妥当性のある評価となるよう多様な評価方法を意識して作成する。(P140参照)最後に、評価を学習改善、指導改善につなげるような評価となるようにし、評価に必要性や妥当性の認められないものについては改善していくことに留意する。
- ・ 題材の指導計画、評価結果を基に、学習改善、指導改善を一体的に捉え、さらに生徒が資質・能力を発揮できるようにする。学習改善、指導改善は、本時につながる改善、次時につながる改善、同じ領域の次の題材につながる改善、違う領域の次の題材につながる改善があるという事に留意し、日々の授業実践を改善につなげることが重要である。学習改善を目指すために、生徒の活動におけるよい点などを積極的に伝え、学びの意義や価値を実感できるようにすることが重要である。また、指導改善を目指すために、生徒の活動のプロセスから、生徒が発揮していた資質・能力を見取る力、授業の導入・展開・結末における教師の指導や手立てが生徒にとって有効であったのかを授業後に教師自身が授業を振り返ることが重要になる。

2 題材の指導計画、評価計画作成上のポイント(配慮事項)

- ・ [共通事項]は、表現及び鑑賞の活動において共通となる資質・能力である。[共通事項](1)ア、イは「知識」に位置付けて指導と評価を行うようにする。[共通事項]を造形的な視点と関連させながら「A表現」及び「B鑑賞」の学習の中で十分に指導するためには、[共通事項]ア、イが活動の中で造形的な視点として豊かに働くように指導場面や指導方法を明確に位置付けた指導計画を作成していくことが大切である。
- ・ 「B鑑賞」に充てる授業時数については、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図れるよう、適切かつ十分な授業時数を確保するようにする。鑑賞の学習を年間指導計画の中に適切に位置付け、目標を実現するために必要な時数を定めて確実に実施しなければならない。
- ・ 第1学年においては、ねらいとする資質・能力を育成するために必要となる画面の大きさや時間数などを十分に考えて題材を設定し、学年の目標が実現されるよう、比較的短い時間で表現に関する資質・能力が身に付くことができるように指導計画を作成する。
- ・ 第2学年及び第3学年では、生徒の発達の特性や創造活動の経験にも違いがあることを踏まえ、発達の特性に合った題材を検討するなど、それぞれの学年において育成する資質・能力を効果的に身に付けることができるように指導計画を作成する。
- ・ 評価規準の設定においては、生徒の学習の実現状況を「おおむね満足できる」と判断されるものをB評価と想定し、学習指導要領の目標や内容、学年ごとの「評価の観点及びその趣旨」、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえて設定する。使われる内容や文言は、学習指導要領や同解説を参考にし、根拠のはっきりした客観的な評価となるようにする。
- ・ 指導と評価計画の作成においては、題材のまとめりの中で適切に評価を実施できるよう、「題材の評価規準に照らして、適宜、生徒の学習状況を把握し指導に生かす評価」と、「題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を記録に残す評価」の視点で計画的に評価の時期や評価方法を考えていくことが重要である。

3 題材の指導と評価の計画 ※学習指導案の形式については、P140第4を参照

＜事例1＞ 知識・技能の育成をねらった事例
 第1学年「願いを叶えてくれる夢の植物を作ろう」
 A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ

- 1 題材名「願いを叶えてくれる夢の植物を作ろう」
 【第1学年】A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ
- 2 題材について
- (1) 生徒の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって (略)
- 3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア _____、イ _____ で示す。)

- (1) 題材の目標
- ・形や色彩、材料の性質や、それらが感情にもたらす効果などや造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 (知識及び技能)
 - ・粘土やラジオペンチなどの生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表す。 (知識及び技能)
 - ・自分の夢や植物の造形について考え、感じ取ったことから発想したことなどを基に材料の性質を考え構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 (思考力、判断力、表現力等)
 - ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め見方や感じ方を広げる。 (思考力、判断力、表現力等)
 - ・美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく自分の夢や植物の造形などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)
- (2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩、材料の性質や、それらが感情にもたらす効果などや造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 粘土やラジオペンチなどの生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表している。</p>	<p>発 自分の夢や植物の造形を見つめ感じ取った形や色彩の美しさ、自分の夢について考え、感じ取ったことなどを基に主題を生み出し、自分の夢と植物の造形との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく自分の夢や植物の造形などを基に粘土などの材料に触れ、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

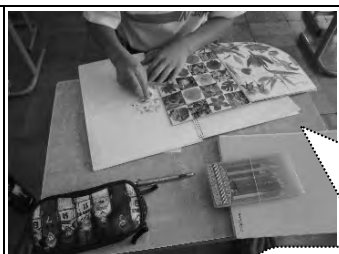


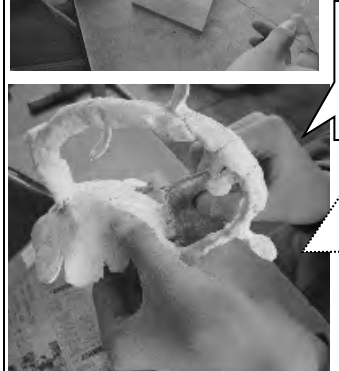


※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりなどしている(下線部は変更箇所)

- (3) 評価計画及び評価方法 (○：指導に生かす評価を行う、◎：全員の学習状況を記録に残す評価)

観点	時	1・2	3～5	6・7	8	授業外	評価方法
知識・技能		○知 技	◎技	◎知 技	○知 技	◎知 技	行動観察・対話・表現
思考・判断・表現		◎発	○発	○発	◎鑑	◎発	行動観察・対話・表現・記述
主体的に学習に取り組む態度		○態表	○態表	◎態表	◎態鑑		行動観察・記述(自己評価表)・対話

4 指導と評価の実際 (8時間扱い)

時間	学習活動	生徒の具体的な姿
第1・2時	<p>1 参考作品を鑑賞したり、材料についての説明を聞いたりして材料の特性について理解する。</p> <p>P128 指導計画の作成の留意事項(6)</p>	<p>1-1 土台の板の大きさから完成作品の大きさを考えることや作品が自立するために針金で芯を作ることなど、生徒が見通しを持って活動に取り組めるように制作に必要なことを伝える。</p> <p>1-2 多様な表現の作品を鑑賞させることで、植物の造形の幅広さや自分の夢や願いごととの関わらせ方の工夫に気付けるよう、作者の思いなどを説明しながら参考作品の紹介をする。</p>

	<p>2 自分の夢や願いごとや植物の形との関わりを考え、どう表すか発想し、構想を練る。 また、友人同士のアイデアスケッチを見合い、助言し合う活動を行う。</p>		<p>【思・判・表 発】自分の夢に関わるものと植物の造形を組み合わせることでアイデアスケッチを描き、色鉛筆で彩色していることから、主題を生み出し、自分の考えを表せていると判断する。 B評価 (対話・表現)</p>
<p>第3・4・5時</p>	<p>3 アイデアスケッチから台の板にどのように芯を立てるか考え、ボール盤を使って穴を開け、ラジオペンチなどを使いながら、針金で芯を作成する。</p>		<p>3 作品の形や使う粘土の重さを考えながら、それに見合った針金の太さの穴をボール盤を使ってあけ、ラジオペンチなどを使って芯を作るよう、針金の性質や道具を安全に使う手順、注意点を理解させる。</p>
	<p>4 針金の芯に粘土で肉付けをする。</p>		<p>【知・技】ラジオペンチや粘土べらを使い自分が表現したい形に表していることから、針金や粘土の特性などを理解し、適切に扱い創造的に表していると判断する。 A評価 (行動観察・対話・表現)</p>
<p>第6・7時</p>	<p>5 自分の夢や願いごと、作品の形などからイメージを膨らませ、絵の具で丁寧に彩色する。</p>		<p>4 粘土べらやのし棒などの道具を使うことでより自分の作りたい表現に近づくことを伝え、使い方などを指導・助言する。</p> <p>【態表】アイデアスケッチなどを参考にしながらイメージを表現しようと制作し、自己評価表に具体的な振り返りの言葉などを書いていることから主体的に活動できていると判断する。 B評価 (行動観察・記述・対話)</p>
<p>第8時</p>	<p>6 自分の作品を紹介したり、お互いの作品を鑑賞したりして、友人の作品のよさや気付いたことをワークシートに記入する。</p>		<p>5 色彩の与える効果を考えながら、丁寧に彩色できるよう、絵の具の濃さや筆の使い方などを助言する。</p> <p>【知・技】自分の表したいことを色彩や塗り方で表現していると判断する。 B評価 (行動観察・対話・表現)</p>
			<p>【思・判・表 鑑】【態鑑】互いの作品について作品紹介を参考にしながら鑑賞し、作品のよさや作者の工夫点に気づき、感想を書いていることから、見方や感じ方を広げていると判断する。 B評価 (行動観察・記述)</p>

P128 指導計画の作成の留意事項(9)

P128 指導計画の作成の留意事項(7)

P128 指導計画の作成の留意事項(11)

＜事例2＞ 思考力・判断力・表現力等の育成をねらった事例
 第2・3学年「ゴッホの表現に迫るー浮世絵と印象派ー」
 編P105「国を超えた魅力に迫る」に関連した事例を示している。
 B鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ

1 題材名「ゴッホの表現に迫るー浮世絵と印象派ー」
 【第2学年】B鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ

2 題材について

(1) 生徒の実態 (略)

(2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア____、イ_____で示す。)

(1) 題材の目標

- ・構図や色彩の効果、立体感や遠近感、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式など文化的な視点で捉えることを理解する。 (知識及び技能)
- ・日本の美術作品に影響を受けたヨーロッパの印象派の作品の表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、日本が諸外国に影響を与えた芸術性の高さに気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材の評価規準


知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 <u>構図や色彩の効果、立体感や遠近感、造形的な特徴などを基に、作風や様式など文化的な視点で捉えることを理解している。</u>	鑑 日本の美術作品に影響を受けたヨーロッパの印象派の作品の表現の特質などから、 <u>造形的なよさや美しさを感じ取り、日本が諸外国に影響を与えた芸術性の高さに気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</u>	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている(下線部は変更箇所)。

(3) 評価計画及び評価方法 (○：指導に生かす評価を行う、◎：全員の学習状況を記録に残す評価)

観点	時	1	2	授業外	評価方法
知識・技能		◎知	○知	◎知	行動観察・対話・記述
思考・判断・表現		◎鑑	◎鑑	◎鑑	行動観察・対話・記述
主体的に学習に取り組む態度		○鑑態	◎鑑態		行動観察・対話・記録

4 指導と評価の実際 (2時間扱い)

時間	学習活動	生徒の具体的な姿
第1時	1 「タンギー爺さん」と「雲龍打掛の花魁」「名所江戸百景大はしあたけの夕立」 「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」を比較鑑賞し、浮世絵の造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風や様式など文化的な視点で捉えることを理解する。	 <p>1 〔共通事項〕の内容について理解できているかを見取り、できていない生徒に対しては、構図や色彩の特徴に着目させるなどの指導を行う。</p> <p>P128 指導計画の作成の留意事項(6)</p> <p>【知・技】発言やワークシートの記述から、構図や色彩の効果、立体感や遠近感、造形的な特徴などを基に、作風や様式などを捉えていると判断する。 B評価(行動観察・対話・記述)</p>

第2時

2 作品の表現の特質から感じ取ったことや考えたことなどをワークシートに記述する。



2 表現の特質などから造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な工夫について考えているかなどを見取る。できていない生徒に対して作品のイメージの違いなどから、それぞれのよさや作者の表現の工夫などについて考えさせる。

3 「タンギー爺さん」の表現のよさや工夫についてグループで話し合い、クラス全体に発表する。



【思・判・表鑑】発言やワークシートの記述から、造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫について幅広く考え、美術文化など多様な視点に立って見方や感じ方を深めていると判断する。

A評価(行動観察・対話・記述)



3 表現のよさや工夫などを捉えようと主体的に鑑賞をしているかを見取る。できていない生徒に対しては、ゴッホが描いた浮世絵の模写の特徴などを考えさせる。

4 「ひまわり」「アルル近くの小道」「ファン・ゴッホの寝室」を鑑賞し、浮世絵の造形的な特徴がどのように影響しているのかをワークシートに記入し、グループで話し合い、クラス全体に発表する。



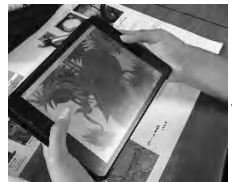
4 それぞれの作品の表現の特質などから相違点や共通点に気づき、浮世絵の造形的な特徴がどのように影響しているのかを考えているかどうかと、主体的に鑑賞をしているかなどを見取る。できていない生徒に対して再度、浮世絵とゴッホが描いた浮世絵の模写を比較鑑賞させ、造形的な特徴に気付かせる。



【思・判・表鑑】【態鑑】発言やワークシートの記述から、造形的なよさや美しさを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫について考えを深めていると判断する。また、話し合いや発表の発言から、主体的に作品の見方や感じ方を深める学習活動に取り組もうとしていると判断する。

B評価(行動観察・対話・記述・記録)

5 学習者用PCを用いて、作品の高解像度画像を鑑賞し、作者の表現の特徴や技法について気付いたことをワークシートに記入し、クラス全体に発表する。



5 学習者用PCの利便性と情報モラルを配慮して、細部にわたる表現のよさや工夫などを捉えようと主体的に鑑賞をしているかを見取る。できていない生徒に対しては、学習者用PCの効果的な利用方法を指導する。

P128 指導計画の作成の留意事項(8)(10)



【態鑑】学習者用PCの扱いや発表の発言から、主体的に作品の見方や感じ方を深める学習活動に取り組もうとしていると判断する。

B評価(行動観察・対話・記録)

6 浮世絵に影響を受けたゴッホの表現の特質などから、日本と諸外国の美術作品のよさや美しさ、美術文化などについてワークシートにまとめる。



6 日本の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、相違点や共通点に気づき、表現の意図と創造的な工夫、美術文化などについて考えて、美意識を高め、見方や感じ方を深めているかを見取る。できていない生徒に対して、西洋の美術作品と日本の美術作品を比較鑑賞させ、日本の美術作品の特徴などに気付かせる。



【思・判・表鑑】ワークシートの記述から、日本の浮世絵に影響を受けたゴッホの作品の表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、日本が諸外国に影響を与えた芸術性の高さに気づき、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めていると判断する。

B評価(行動観察・対話・記述)

＜事例3＞ 主体的に学習に取り組む態度の育成をねらった事例
 第2学年「日本の魅力を伝えるスーベニアタンブラーのデザイン」
 A表現(1)イ(イ)、(2)ア、B鑑賞(1)イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ

1 題材名「日本の魅力を伝えるスーベニアタンブラーのデザイン」
 【第2学年】A表現(1)イ(イ)、(2)ア、B鑑賞(1)イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ

2 題材について

(1) 生徒の実態 (略)

(2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア____、イ_____で示す。)

(1) 題材の目標

- ・形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、場所や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。 〈知識及び技能〉
- ・意図に応じて表現方法を工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。 〈知識及び技能〉
- ・日本の魅力を伝えるために、伝える相手や日本の伝統などのイメージなどから主題を生み出し、形や色彩などが感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどとの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練る。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に地域の人や訪れる人々に対して日本の魅力を分かりやすく伝えることなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準





知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、場所や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 意図に応じて表現方法を<u>創意工夫</u>して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。</p>	<p>発 日本の魅力を伝えるために伝える相手や日本の伝統などのイメージなどから主題を生み出し、<u>形や色彩などが感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさなどとの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練っている。</u></p> <p>鑑 <u>伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</u></p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に<u>主題を生み出し、統一感などを総合的に考え構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動</u>に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に<u>伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞活動</u>に取り組もうとしている。</p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)

(3) 評価計画及び評価方法 (○：指導に生かす評価を行う、◎：全員の学習状況を記録に残す評価)

観点	時	1・2	3～7	8	授業外	評価方法
知識・技能		○ 知	◎ 知 技	○ 知		行動観察・対話・表現
思考・判断・表現		◎ 発	○ 発	◎ 鑑	◎ 発 鑑	行動観察・対話・表現・記述
主体的に学習に取り組む態度		◎ 態表	○ 態表	◎ 態鑑		行動観察・対話・対話

4 指導と評価の実際（8時間扱い）

時間	学習活動	生徒の具体的な姿
第1・2時	1 国語科と連携し、普段の生活や習慣を振り返り、日本の文化や伝統とは何かを調べ考えを深めていく。	 <p>1 図書室の資料やインターネット等を活用し、生活の中にある日本の文化や伝統のよさや諸外国との違いに気付かせる。</p> <p>P128 指導計画の作成の留意事項(3)</p>
第3・4・5・6・7時	2 授業の目標を確認し、日本の魅力を伝えるという学習のテーマに沿った主題を見つける。	 <p>【態表】調べたことの中から主題を生み出すことによって、今後の活動に見通しをもち主体的に取り組んでいると判断する。 B評価(行動観察・対話・表現)</p>
	3 ラミネートシートを使ったコラージュ技法を知り、主題に沿った形や色彩を考え、素材を作る。	 <p>【知・技】主題に沿ったイメージを具体的に表すため、表現方法を身につけていると判断する。 B評価(行動観察・対話・表現)</p>
	4 主題が伝わるような構成を考える。また、コラージュした作品が立体になった時をイメージしながら構成する。	 <p>【知・技】主題が伝わるような素材の配置を考える。また、コラージュした作品が立体になった時をイメージしながら構成している。と判断する。 A評価(行動観察・対話・表現)</p>
	5 構成された作品をラミネート加工し切り抜いてタンブラーの中に入れる。	 <p>5 ラミネーターを使って加工できるように、道具を安全に使う手順、注意点を理解させる。</p> <p>P128 指導計画の作成の留意事項(1)</p>
	6 ハガキサイズの画用紙に、作品の題名と解説を書き、作品鑑賞会に使うポップカードを制作する。	 <p>【思・判・表 発】ポップカードの制作を通して、主題に込めた思いを発信している。と判断する。 B評価(行動観察・対話・表現)</p>
第8時	7 グループになり、ポップカードを使って主題を伝え、完成作品を鑑賞し合う。個人で感想をまとめ、全体の中で発表する。地域のお店で作品を展示し鑑賞する。	 <p>【態鑑】グループ発表では、ポップカードを活用しながら互いの作品について作品を紹介し、作品のよさや作者の意図を捉えようと発言する姿が繰り返し見られ、ワークシートでも見方や感じ方を深め、意欲的に活動している。と判断した。 A評価(行動観察・記述)</p>  <p>P128 指導計画の作成の留意事項(4)</p>

美術

第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方

- ・ 本時の学習指導に当たっては、本時の目標や指導内容を明確にし、生徒が見通しをもって主体的に活動できるよう、「提案の仕方」「場の設定」「表現方法」「材料や用具」などを吟味するとともに、生徒の心情や考えを大切にす指導、美術の創造活動の喜びが味わえる指導に留意する。
- ・ 本時の評価に当たっては、題材の評価計画に沿って本時での評価の重点をしぼり、「どんな視点で」「どんな場面で」「どんな方法で」評価するのかを具体的に明らかにして評価し、評価の蓄積ができるよう留意する。なお、A評価とC評価の評価規準は示さず、B評価より上がA評価、下がC評価とする。
- ・ 本時の評価結果を基に、指導・評価を改善し、生徒の資質・能力の向上を図る。評価資料等を基に、本時の授業展開を振り返り、目標、指導内容、題材、指導計画に基づいた評価を行い、「生徒の学習改善」「教師の指導改善」「必要性、妥当性が認められない学習評価の見直し」につながるようにする。

2 具体的な学習評価の方法及び記録の方法

学習評価の方法	具体的な視点、留意点など
行動観察	・ 手や体の動き、友人との関わりなどに注目し、「生徒が〇〇している」という状態を見取る。また、「初めは〇〇していたが、途中から〇〇している」というように、時間経過による変容も見取る。
発言	・ 発言やつぶやきから、生徒の思いや意図、悩みなどを把握する。
表情	・ 活動中の表情やまなざしを手掛かりにして、生徒の思い、意図していることなどを推測する。ときには、声掛けを控えて、見守ることも大切である。
対話	・ 称賛や助言をしたり、尋ねたりしながら対話をする中で、生徒の思いや意図、悩みなどを把握する。制作過程や鑑賞活動中の生徒同士の対話にも耳を傾ける。
表現・作品	・ 表現、制作の過程を追い、発揮された生徒の資質や能力、思いや意図の変容を見取る。近づいて生徒の目線で見ること大切である。 ・ 完成作品からは、発想の過程や制作の手順をたどり、そこに発揮されている生徒の資質や能力、思いや意図の変容を読み解いていく。 ・ 生徒自らが、展示方法や見せ方を考えながら、自分の表現や作品を写真や動画に記録したものなどを参考にして、思いや意図を読み取る。
記述	・ 「学習カード」「鑑賞カード」「自己評価カード」「作品カード」などは、その記述から、発揮された生徒の資質や能力、思いや意図の変容を見取るとともに、今後の活動への支援や指導、授業改善に生かすことが重要である。 ・ 生徒自らが見方や感じ方を深め、学んだことを振り返ることができるようにするとともに、生徒同士で互いの思いや発見を分かち合えるようにする。 ・ 自己評価をさせる際には、教師が、その授業でのねらいや課題を改めて示すなど、生徒自身が評価のポイントを明確に理解できるように工夫する。

記録の方法	具体的な視点、留意点など
補助簿	・ 「自由記述型補助簿」「観点別評価型補助簿」などが考えられる。無理なく継続できるものを工夫する。授業後は生徒の学習過程を振り返りながら記述するようにし、記述の蓄積により評価する。
映像	・ 静止画（写真）や動画などが考えられる。一瞬を逃さずに記録でき、授業の振り返りが容易になる。生徒の姿やつぶやきに焦点を当てるとよい。活動の変容がよく分かり、作品や活動の過程を記録するのにも向いている。
ポートフォリオ	・ スケッチブック、ノートなどに学習で用いた様々な資料を貼っていく。継続的に、生徒の成長を見取ることができる。 ・ 表現・制作の過程を撮影した画像（写真）や動画等を活用して、メモやコメントと一緒にデータとして管理し、積み重ねていくのもよい。

3 題材の指導・評価計画

<事例1> 感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、立体に表す事例
 第2学年「100分の1秒の世界～動きを立体に表現する～」
 A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ 立体に表す活動

1 題材名「100分の1秒の世界 ～動きを立体に表現する～」
 【第2学年】A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ 立体に表す活動

2 題材について

(1) 生徒の実態 (略)

(2) 本題材を指導するに当たって

本題材「100分の1秒の世界」は、動きの背景にある物語や一瞬の形の美しさなどから主題を生み出し、形や色彩や全体と部分との関係などを工夫し、心豊かに立体作品に表現する。また、造形的なよさや美しさ、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める題材である。表現や鑑賞を通して、学びに向かう力を発揮して、知識及び技能を学びながら、思考力、判断力、表現力等を高める題材である。

3 学習指導要領上の位置付け

A表現(1)ア(ア)…略、(2)ア(ア)…略、B鑑賞(1)ア(ア)…略、〔共通事項〕(1)ア…略、イ…略

4 目標・〔共通事項〕及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア____、イ_____で示す。)

(1) 題材の目標

- ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、動きの一瞬を表すための造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 (知識及び技能)
- ・芯材となる針金や粘土の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。 (知識及び技能)
- ・日常にある様々な動きを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に、動きの背景にある物語や一瞬の形の美しさなどから主題を生み出し、形や色彩を単純化したり強調したり、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日常にある様々な動きを見つめて感じとったことなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩などが感情にもたらす効果や、動きの一瞬を表すための造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技 芯材となる針金や粘土の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。</p>	<p>発 日常にある様々な動きを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に、動きの背景にある物語や一瞬の形の美しさなどから主題を生み出し、形や色彩を単純化したり強調したり、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日常にある様々な動きを見つめて感じとったことなどを基にした表現の活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などを考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている(下線部は変更箇所)。

5 指導計画(8時間扱い)

- (1) 様々な動きと動きを感じる表現について考え、主題を発想する。……………1時間
- (2) 主題を基に、資料等を活用してアイデアスケッチを行い、構想を練る。……………1時間
- (3) 構想を基に、針金などで骨組みを制作し、粘土の特性を生かし工夫して制作する。また絵の具や塗料などの特性を生かしながら工夫して彩色する。……………5時間
- (4) 他者の作品から、表現の意図や工夫などについて考え見方や感じ方を深める。……………1時間

6 本時の学習（本時 2 / 8時）

(1) 目標

- ・日常にある様々な動きを深く見つけ感じ取ったことや考えたことなどを基に、動きの背景にある物語や一瞬の形の美しさなどから主題を生み出し、形や色彩を単純化したり強調したり、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。

〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 準備 ○教師：資料提示用 ICT 機器（プロジェクターや大型液晶等）、映像資料、ワークシート

○生徒：教科書、筆記用具、色鉛筆等、写真等の資料

(3) 展開

過 程 時 間	学習活動 予想される生徒の 具体的な姿(「」)	指導の工夫 (〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ____)	評価と手立て 観点:評価規準(評価方法) ◎:十分満足できる状況 ◆:B評価に達しない生徒への手立て
導入 10分	<p>提案 自分のテーマを基に、工夫を考えながらアイデアスケッチで作品の構想を練ろう。</p> <p>1 前時の振り返りと本時のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 「色々な動きを考えただけテーマはどれにしようか。」</p> <p>2 スケッチの例を鑑賞し、ポイントを確認する。 「こんな風にスケッチするんだね。」 「すごい工夫を考えてスケッチしてあるな。」</p>	<p>○ 本時のねらいと学習の見通しがもてるように、板書とワークシートを使用して説明する。</p> <p>○ アイデアスケッチで構想を練ることのポイントを確保できるように、参考スケッチの鑑賞とポイントの整理を、ICTを活用しておこなう。</p> 	<p>P128 指導計画作成の留意事項 (2)(7)(8)</p> <p>生徒が主題を基にアイデアスケッチで構想を練ることに粘り強く取り組めるようにするために、ICTを活用して参考になる具体的な例を提示し、取り組むポイントを整理して説明するよう工夫した。</p> <p>＜スケッチのポイント＞</p> <p>①主題の動きの流れの「どの瞬間」を切り取るのかをよく考えてスケッチする。</p> <p>②主役の姿勢や形を工夫する。</p> <p>③土台や背景などを工夫する。</p>
展開 30分	<p>3 身の回りの様々な動きの中から決めた主題を基に、アイデアスケッチをしながら、表現の工夫点などを考え、構想を練る。 「主役はこの資料のポーズを参考にしてスケッチしよう。」 「この動きなんだけど、少しモデルになってくれる。」</p>  <p>＜スケッチの例＞</p>  <p>＜お互いにポーズをとりテーマを深めながらスケッチする共同で行う創造活動の姿＞</p>	<p>○ <u>主題を基に、主役となる部分の姿勢や形を単純化や強調することのできるように、参考資料を生かしたり、実際にポーズを取ってみたりしながらスケッチするようにする。</u></p> <p>題材の評価規準で「創造的な構成を工夫し、心豊かに…」となっている姿は、「アイデアスケッチを重ねる中で表現された、スケッチの工夫や変容」で評価するようにした。</p> <p>○ <u>主題を効果的に表すために全体と部分との関係を考えてスケッチできるようにするために、主役と土台や背景との関係を考えてスケッチをするように声をかける。</u></p> <p>【指導に生かす評価の考え方】 スケッチに取り組む姿勢や、振り返りの記述などから、主体的に学習に取り組む態度を見とり、指導を工夫改善することに生かすようにした。</p> <p>P128 指導計画作成の留意事項(9)</p>	<p>【発】日常にある様々な動きを深く見つけ感じ取ったことや考えたことなどを基に、動きの背景にある物語や一瞬の形の美しさなどから主題を生み出し、形や色彩を単純化したり強調したり、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (記述、表現・作品)</p> <p>◎生み出した主題を基に、主題をよりよく表現するために、形や色彩を単純化したり強調したり、全体と部分との関係などを考えてスケッチを行い、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>◆生徒の主題と、形や色彩、全体と部分との関係などを確認させて、再度主題について具体的に考えさせたり、具体的なスケッチの参考例を示したりして、構想について考えさせる。</p> <p>【態表】美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日常にある動きを見つめて感じとったことなどを基にした表現の活動に取り組もうとしている。 (記述、行動観察)</p> 
まとめ 10分	<p>4 制作記録ノートを使用して、本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p> 	<p>○ 本時の活動を振り返り、完成までの見通しをもてるように、制作記録ノートを活用し、次時までの課題を明確にする。</p>	<p>＜参考：完成作品のイメージ＞</p> <p>振り返りや学習の見通しをもつことを通して、生徒が自らの学習を調整できるようにするために、制作記録ノート（ポートフォリオによる自己評価）を工夫して作成し活用した。</p>

＜事例2＞ 使う目的や条件などを基に、材料などから主題を生み出し、立体に表す事例
A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(イ)、B鑑賞(1)イ(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ 立体に表す活動

1 題材名 「私の部屋をすてきに演出 ～灯りのデザイン ランプシェード～」

【第2学年】 A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(イ)、B鑑賞(1)イ(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ 立体に表す活動

2 題材について

(1) 生徒の実態 (略)

(2) 本題材を指導するに当たって

生活の中で灯りは欠かせないものであるが、身近にありすぎてあまり深く考えたことがないという生徒も多い。ひとたび外に目を向ければ、店の雰囲気演出するためであったり、建物のライトアップに利用されたりと、照明は生活の中で様々な工夫がしてある。そこに注目し、生活を豊かに彩る工夫を考える想像力を広げさせたい。本題材は、生活の中でもより身近な灯りについて考え、生活の中に美術作品を取り入れることを学ぶ学習活動である。美術作品を身近に置くことを想像し、体験させることで「生活の中の美術」の面白さを味わわせたい。また制作方法では日本の伝統工芸の「張り子」を使い伝統工芸のよさや美しさを学ぶ機会としたい。

3 学習指導要領上の位置付け

A表現(1)イ(ウ)…略、(2)ア(イ)…略、B鑑賞(1)イ(ア)…略、〔共通事項〕(1)ア…略、イ…略

4 目標・〔共通事項〕及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イは、ア_____、イ_____で示す)

(1) 題材の目標

- ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが環境や使う人の感情にもたらす効果などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。 (知識及び技能)
- ・和紙や接着剤の特性を生かし、意図に応じて表現方法を工夫して、制作の手順などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表現する。 (知識及び技能)
- ・使用する環境や場面を深く見詰め、感じ取った光の形や色彩の特徴の美しさなどを基に主題を生み出し、光の創造的な構成を工夫し、心豊かに表現の構想を練る。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・光のデザインの造形的なよさや美しさ、洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に使用する環境や場面を深く見詰め感じ取った光の形や色彩の特徴の美しさなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが環境や使う人の感情にもたらす効果などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 和紙や接着剤の特性を生かし、意図に応じて表現方法を工夫して、制作の手順などを総合的に考えながら、見通しをもって<u>創造的に表現している。</u></p>	<p>発 <u>使用する環境や場面を深く見詰め感じ取った光の形や色彩の特徴の美しさなどを基に主題を生み出し、光の創造的な構成を工夫し、心豊かに表現の構想を練っている。</u></p> <p>鑑 <u>光のデザインの造形的なよさや美しさ、洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</u></p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に使用する環境や場面を深く見詰め感じ取った光の形や色彩の特徴の美しさなどを基に表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に<u>光のデザインの造形的なよさや美しさ、洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</u></p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている(下線部は変更箇所)。

5 指導計画(8時間扱い)

- (1) 灯りの種類や環境デザインを理解し、使う目的・場所をイメージしデザインする。……1時間
- (2) 土台を新聞紙とラップとテープを使い制作する。……2時間
- (3) 和紙をちぎり、接着水(木工用接着剤を水で薄めたもの)で貼り付けていく。……2時間
- (4) 乾燥させたら中から新聞紙を抜き取り、仕上げをする。……2時間
- (5) 鑑賞とレポートを作成し、まとめをする。……1時間

6 本時の学習（本時 4 / 8時）

(1) 目標

- 和紙や接着剤の特性を生かし、意図に応じて表現方法を工夫して、制作の手順などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表現する。（知識及び技能）

(2) 準備

- 教師：木工用接着剤を水で薄めたもの（以下接着水と表記）、予備の和紙、予備の新聞
- 生徒：教科書、資料集、スケッチブック、筆記用具、新聞紙、和紙

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される生徒の 具体的な姿（「」）	指導の工夫 （〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____）	評価と手立て 観点：評価規準（評価方法） ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない生徒への手立て
提案 私の灯りをイメージして、工夫して和紙をはろう！			
導入 10分	<p>1 制作の手順を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>片付けが手早くできるように机に新聞紙を敷かせる。</p> <p>2 作業の準備をする。</p> <p>1机の上に新聞紙を敷く 2和紙を用意する 3接着水を用意する</p> <p>接着水はあらかじめ数本のペットボトルに入れて準備しておく。</p> 	<p>○板書に制作手順を貼り、題材への興味・関心を高め、出来上がりイメージをもつことができるようにする。</p> <p>P128 指導計画の作成の留意事項(1)(8)</p> <p>○作品の仕上げ方は自分の表現したいイメージによって様々あることをICT機器を使い、言葉だけでなく視覚でも確認できるようにする。</p> <p>学習者用PCを使い、あらかじめ用意しておいた生徒作品や制作過程の画像を見せる。</p>	 <p>手順カードを毎時間貼ることで、進みの遅い生徒でも先を見通して、確認しながら制作を進めることができる。</p>   <p>〈スケッチの例〉</p> <p>P128 指導計画の作成の留意事項(6)</p>
展開 30分	<p>3 土台に和紙を貼っていく。 「和紙をあらかじめちぎっておくと楽だ。」 「透けさせるためにはどうしたらいいか。」 「色を付けるのはどのタイミングがいいだろうか。」</p> <p>4 開口部に当たる部分には厚めに和紙を貼る。 「開口部の大きさはどのくらいにすればよいか。」 「どのくらい厚く和紙を貼ればよいか。」</p>  	<p>○形のイメージに注目し、張り方や厚みで印象が変わることに気付くようにする。</p> <p>○色を付けるのは接着水に色を付けてもよいし、乾燥させてからでもよいと、多様な仕上げの順序があることに気付くようにする。</p> <p>○作品を置く場所をイメージしながら色を選んでいく。</p> <p>○貼る場所によって和紙の形を工夫できるようにする。</p> <p>【指導に生かす評価の考え方】 アイデアスケッチを基に灯りのイメージを考えながら、見通しをもって取り組めたかを、振り返りの記述などから見とることで、指導を工夫改善することに生かすようにした。</p>	<p>【知・技】和紙や接着剤の特性を生かし、意図に応じて表現方法を工夫して、制作の手順などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表現する。（表情・行動観察）</p> <p>◎仕上りイメージを考えながら和紙を選んで貼っている。</p> <p>◆隙間が空いている場合には和紙を重ねて貼るように助言する。</p> <p>【態表】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や使用する環境などを考えた表現を創意工夫し、見通しをもって表す表現の学習活動に取り組む。（記述）</p>
まとめ 10分	<p>5 本時の活動の振り返りをする。自分の学習状況を確認するとともに、次時の活動への見通しをもつ。</p> <p>P128 指導計画の作成の留意事項(6)</p>	<p>○余った接着水は元のペットボトルに戻させる。</p> <p>○本時の活動の成果がよくわかる作品を紹介し各自の振り返りの指針とする。</p> <p>○紹介では、形やイメージを表すのに、和紙をどのように生かしたのか説明する。</p>	<p>生徒が感じたことが次回につながるよう、色、形、イメージをキーワードに見方や考え方を共有するようにする。</p>

7 場の設定

お互いの制作過程が見えるように班での活動とした。共通で使うものは取りに行きやすいように、よく見える位置の空き机に置くなどの場の設定の工夫をした。

＜事例3＞ 造形的なものの見方や感じ方を広げ、美術館を活用する事例 博学連携

第1学年「語り合おう日本の美～美術館へ行ってみよう！～」

B鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 鑑賞の活動

1 題材名 「語り合おう日本の美～美術館へ行ってみよう！～」

【第1学年】B鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 鑑賞の活動

2 題材について

(1) 生徒の実態 (略)

(2) 本題材を指導するに当たって

生徒は、様々なメディアを通じて、有名な画家の名前や作品について知識を得ることはできている。しかし、知識と感性に基づく造形的なものの見方や考え方を身に付けるためには、作品をじっくりと味わい、自分の感性を働かせた鑑賞方法を体験し、実感的に理解していくことが大切である。今回は、埼玉県立近代美術館の『日本画のプログラム』を取り入れた鑑賞と水墨画の制作により、日本美術、伝統文化についての理解を深めるよう指導する。…(略)

※本題材は、埼玉県立近代美術館の活用例を紹介し、事前学習のポイントや事後の活動を提案するものである。美術館を利用する際には、【教育普及担当】に問い合わせると、鑑賞教材や指導方法などのポイントを学ぶことができる。教師が積極的に活用し、多くの生徒に利用する機会を与えることは、文化財への理解を深め、生涯学習の視点を育むことも期待できる。

3 学習指導要領上の位置付け

B鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ)、…略、〔共通事項〕(1)ア…略 イ…略

4 目標・〔共通事項〕及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イは、ア____、イ_____で示す。)

(1) 題材の目標

- ・光の表現や空間構成が感情にもたらす効果など日本美術の表現を楽しみ、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 〈知識及び技能〉
- ・日本の伝統や文化に根付いた美術作品のよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を広げる。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に日本の美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習に取り組もうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 光の表現や空間構成が感情にもたらす効果など、日本美術の表現を楽しみ、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p>	<p>鑑 日本の伝統や文化に根付いた美術作品のよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p>鑑態 美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に日本の美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習に取り組もうとしている。</p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている(下線部は変更箇所)。

5 指導計画(2時間扱い)

- (1) 水と墨を使って様々な水墨画の表現を体験する。……………1時間
- (2) 掛け軸、屏風を鑑賞し、作品を観る楽しさを味わい、見方や感じ方を深める。……………1時間
- (3) 事後学習：長期休業日を利用し、美術館訪問によるレポート、または、日本文化の魅力を紹介するレポートを作成する。

6 本時の学習(本時 2/2時)


(1) 目標

…(略) ※本時の目標は、4(1)題材の目標と同じ。

(2) 準備

- 教師：美術館の複製画《春の夜》 鑑賞道具一式、ワークシート、モニター、PC
- 生徒：教科書、筆記用具、前時の作品

(3) 展開

過 程 時 間	学習活動 予想される生徒の 具体的な姿(「」)	指導の工夫 (〔共通事項〕に係る内容ア____、イ____)	評価と手立て 【観点】: 評価規準(評価方法) ◎: 十分満足できる状況 ◆: B評価に達しない生徒への手立て
導 入 5 分	提案 語り合おう日本の美、行ってみよう美術館!		
展 開 40 分	<p>3 屏風を少人数で鑑賞する。</p> <p>《風神雷神図屏風》 「ジグザグして見えて見え方が変わる。」 「金色の所は何だろう。」 「自分なら、背景には、何を描こうかな。」</p> <p>4 掛け軸を鑑賞する。 《春の夜》小茂田青樹</p> <p><対話による鑑賞> 作品の隅々まで見て感じたことをもとに想像しながら発言する。</p> <p>問: 時間はいつぐらいかな? 「夜。でも、花が咲いているから夕方かな。」 「真ん中あたりで明るく色が変化しているから明け方?」 「茂みの向こうが光ってるように見える。」「何かあるのかな?」「きっと街があるよ!」</p> <p>掛け軸の素材や日本画材料の実物を見て特徴を理解する。</p> <p>5 美術館の楽しみ方や役割を知る。 「埼玉にある作品について知れた。本物を見に行きたい。」</p>	<p>○水墨画を掛け軸や屏風に仕立てる装丁や鑑賞様式を紹介し、その時代の人々がどう楽しんでいたのか想像させる。</p> <p>○和室について紹介し、生活の仕方や部屋の明るさなど、その時代の様子をイメージさせる。</p> <p>○教科書や資料を使って鑑賞し、気付いたことをワークシートに記入後グループ内で発表させる。</p> <p>○平らな印刷物と屏風との見え方の違いなど、<u>形や色などの造形的な特徴に気付くよう</u>、見る角度を変えながら隅々まで見るよう促したり、見せ方を工夫する。</p> <p>○対話を通して、<u>作品全体のイメージや作風を捉えられるように</u>、一人、グループや全体で鑑賞する時間配分や声掛けを工夫する。</p> <p style="text-align: center;">P128 指導計画の作成上の留意事項(5)</p> <p><対話による鑑賞のポイント> ①感じ方に間違いはないので、思ったことを自由に話すこと。 ②どこからそう感じたのか(考えたのか)理由をつけること。 ③友達の意見もしっかり聞くこと。(自分の感じ方が広がり、深まる)</p> <p><進行する時のポイント> ①全ての意見を否定せず、「どうしてそう思ったの?」と、確認しながら聞く。 ②「同じように感じた人?」「他の感想はある?」と、他の生徒の意見を引きだしたり、交流させる。 ③意見が硬直したり、尽きたりしたところで、他の視点を与え、生徒の考えを揺さぶったり、深めたりする。</p> <p>○布に描かれていることや、日本画の材料、岩絵の具や金粉が使われていることなどを紹介し、本物の作品に興味をもたせる。</p> <p>○美術館のホームページを利用し、埼玉県立近代美術館の特徴や展示を紹介する。また、生徒が作成した美術館レポートなどを紹介し、休日を利用して訪問してみるよう働き掛ける。</p>	<p>【鑑賞】美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に日本の美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習に取り組もうとしている。 (表情・対話・行動観察)</p> <p>◎自ら積極的に鑑賞したり、説明し合ったりしている。</p> <p>◆形や色などの特徴など、他の生徒の意見を聞かせ、自分はどう感じるかを考えさせる。</p>  <p>【知】光の表現や空間構成が感情にもたらす効果など、日本美術の表現を楽しみ、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 (行動観察・記述)</p> <p>◎形や色などを基に感じたことや、イメージしたことを発表している。</p> <p>◆季節や時間、色の変化など、具体的に着目させ、感じたことを聞いたり、表現について考えさせたりする。</p> <p>【鑑】日本の伝統や文化に根付いた美術作品のよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付く、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を広げている。 (行動観察・記述)</p> <p>◎日本美術の特徴やよさや美しさを感じ取ったり、日本や諸外国の伝統や文化に関心をもったりして見方を広げている。</p> <p>◆生徒同士で感想を交換させたり、鑑賞のポイントを確認し考えをまとめるよう助言する。</p>
ま と め 5 分	<p>6 本時の学習の振り返りをする。 「初めて掛け軸をじっくり見た。友達と意見が違ったが、新しい見方を発見した。色々な見方があって面白かった。また見たい。」</p>	<p>○様々な視点から作品を捉えたり、見方を深めるなど生徒の鑑賞活動のよいところを称賛する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">授業で得た鑑賞の視点や考えの変化、本人の発見を評価する。考えの変化が分かりやすいよう、発問やワークシートを工夫する。</p>	

美術館との連携について

- 各館のホームページで学校向けの利用案内や収蔵作品について詳細が分かる。埼玉県立近代美術館の教育普及では主に次の業務を行っている。
 - ・団体利用案内(学年や美術部での見学、夏休み等)
 - ・貸し出し(アートカード・複製画・鑑賞パネル/資料)
 - ・授業協力(出張授業は無料)
 - ・既存の鑑賞プログラムや鑑賞授業についての相談
 - ・教師向けの研修



<展示室での鑑賞の様子>



<出張授業の様子>

○留意事項

- ・利用に際しては、打ち合わせが必須である。1~2ヶ月前には一度電話を入れ相談の約束をする。
- ・展示に関しては、会期によって作品が入れ替わることを念頭に置く。長期休業等、教師がつかず、展示室内を生徒に利用させる時は、教師がマナーを確認し、事前指導、課題を与えることでトラブルを予防する。(例: 消しゴムやボールペン等の使用不可、飲食不可、立ち止まって模写不可など)

<問い合わせ先> 埼玉県立近代美術館 048-824-0111 教育普及担当

＜事例4＞ 思考力・判断力・表現力等を育成するために、ICTや学習者用PCを活用した事例
 第2学年「そばに置きたい 食卓の働きものたち」
 編P105「1枚の板から〇〇が誕生！」と関連した事例を示している。
 A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ

- 1 題材名 「そばに置きたい 食卓の働きものたち」
 【第2学年】A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ デザインや工芸に表す活動
- 2 題材について
- (1) 生徒の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって
 本題材は、食卓におけるカトラリーの小さな問題を解決して、新しい形をデザインする内容である。材料は、温かみがあり、扱いやすい木や枝木とした。
- 3 学習指導要領上の位置づけ
 A表現(1)イ(ウ)…略、(2)ア(ア(イ)…略、B鑑賞(1)ア(イ)…略、〔共通事項〕(1)ア…略、イ…略
- 4 目標・〔共通事項〕及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イは、ア_____、イ_____で示す。)

- (1) 題材の目標
- ・ 形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解する。 〈知識及び技能〉
 - ・ 木材や彫刻刀などの特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。 〈知識及び技能〉
 - ・ 使う目的や機能などを基に、使用する者の立場、生活との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。 〈思考力、判断力、表現力等〉
 - ・ 使いやすさなどの機能デザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 〈思考力、判断力、表現力等〉
 - ・ 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や機能などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉
- (2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や材料などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージなどで捉えることを理解している。</p> <p>技 木材や彫刻刀などの特性を生かし、意図に応じて表現方法を<u>創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。</u></p>	<p>発 使う目的や機能などを基に、使用する者の立場、生活との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。</p> <p>鑑 <u>使いやすさなどの機能デザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。</u></p>	<p>態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に<u>主題を生み出し、目的や機能など意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。</u></p> <p>態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に<u>使いやすさなどの機能デザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考える鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</u></p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている(下線部は変更箇所)。

5 指導計画(8時間扱い)

- (1) 題材から想像を広げ、表したいものを考える。……………2時間
- (2) 木や枝木を材料に、表したいものを制作する。……………5時間
- (3) 自分たちの作品を見ながら、表現のよさを味わう。……………1時間

6 本時の学習(本時1/8時)



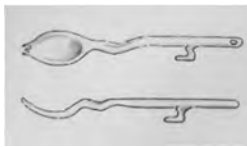
- (1) 目標
- ・ 使う目的や機能などを基に、使用する者の立場、生活との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。
 〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や機能などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 準備

- 教師：木、枝木、大型テレビ、学習者用P C
- 生徒：教科書、筆記用具

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される生徒の具体的な姿(「」)	指導の工夫 〔共通事項〕に係る内容 ア _____、イ _____)	評価と手立て 観点：評価規準(評価方法) ◎：十分満足できる状況 ◆：日評価に達しない生徒への手立て
導入 10分	<p>提案 食卓におけるカトラリーの小さな問題を解決して、新しい形を考え、描こう。</p> <p>1 作品例を見て表現方法を考えながら学習の見直しをもつ。 「もちやすそうだ」「切ることもできそうだ」「どうしてこのような形をしているのだろう」</p> 	<p>○作品例を複数見せ、生徒自身に分類させることによって、題材への興味・関心を高め、新たな表現方法についてのイメージをもつことができるようにする。</p>  <p>【ICTの活用①】 ・手で作品例を、一人一人確認する。</p>	<p>生徒が構想を練り、新しい形を考えられるようにするために、具体例を提示し、ポイントを整理した。</p> <p>① 機能性と働き ② 美しさ ③ 使用する者の立場</p>
展開 30分	<p>3 小さな問題を解決し、新しい形にするには、どうしたらいいか考える。 「カトラリーを使用する時の問題点は何だろう。」 「子供が使いやすい形にするにはどうしたらいいだろう。」 「実際に作れるだろうか」</p> <p>4 どんな形が考えられたか学習者用P Cを使って共有する。 「この形はいいな」 「どうしてこんな形をみんなは考えたのだろう」</p> <p>P128 指導計画の作成の留意事項②</p> <p>P128 指導計画の作成の留意事項⑩</p> <p>5 自分としての意味や価値をつくり、新しい形をさらに考える。 「手に持って使うだけではなく、見た目も重視したい。」 「机の上に置くときに、よごれないようにしたい。」</p>	<p>○実際に材料を手にして、形や質感などを<u>感じ取りながら、活動を思い付いたりイメージをもったりしながら、新しい形を考える。</u></p>  <p>【ICTの活用②】 ・インターネットで調べる。 ・描画ソフトを使用する。</p> <p>【著作権についての配慮】美術に関する知的財産権などについても説明する。</p> <p>○友人と関わり合い、互いのよさを生かしながら活動を広げていくようにする。</p> <p>【ICTの活用③】 ・アイデアスケッチを撮影し、全員で瞬時に見合う。</p>  <p>○造形的な特徴と、働きや機能についての結び付きの観点を、生徒が生かせるように、教師が黒板に整理し示す。</p>	<p>【発】使う目的や機能などを基に、使用する者の立場、生活との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。(表情・行動観察・対話・スケッチ)</p> <p>【指導に生かす評価の考え方】 使う目的や機能などを基に構想を練り、問題点を解決しながら新しい形を生みだそうとしているのを見取り、指導を工夫改善することに生かすようにした。</p> <p>【態表】主体的に目的や機能などを基に表現する学習活動に取り組もうとしている。(行動観察・対話) ◎主題を生み出すために、目的や機能などを基に、友人との関わりの中から考えを広げ、主体的に生徒自らが強く表したいことを思い描いている。 ◆機能性と美しさと調和、働きなどに着目し、使う人の立場に立って考えるように助言する。</p> 
まとめ 10分	<p>6 本時の学習活動の振り返りをする。次時の活動への見直しをもつ。</p>	<p>○本時の学習の中で、一人一人が小さな問題を解決し、新しい形を考えられたか確認をする。 ○教師が生徒の考えた新しい形の中から、目標、評価規準に照らして評価する。 ○次時の活動内容に触れる。</p>	

【ICT (学習者用P C等) を活用することが想定される場面】

- (1) 材料や用具等の技法指導の際に、ICTを活用して動画やテキストなどを例示する。
- (2) インターネットを使用し、参考となる作品や表現の工夫などについて調べる。
- (3) 描画ソフトを使い、何度も描いたり消したり、色のパターンを変えることができるようにする。
- (4) 生徒のアイデアスケッチや作品、活動の様子を写真や動画で撮影し、取組を共有する。
- (5) 生徒の意見を瞬時に集計し、集計結果を共有することで、見方や感じ方を深める。

第5 美術科における学習評価の総括例

1 題材における観点ごとの評価の総括例

(関連：編 P105題材例「1枚の板から〇〇が誕生！－木工作品の魅力－」【第2学年】)

中学校学習指導要領では、評価の観点が従来の「美術への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」の4観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。

生徒の学習評価に関する妥当性、信頼性を高めるために、作品からだけではなく毎時間の授業での学習を評価し、プロセスを重視することが重要となる。下記に評価補助簿の例を示す。余白には、個別指導した内容や、見取ったことなどを記録しておき、生徒の活動を振り返りながら評価していくことが大切である。

また、授業外において、アイデアスケッチやワークシートを再確認するとともに、ペーパーテストの結果なども評価方法の一つとして考えられる。

評価計画（8時間扱い） 「1枚の板から〇〇が誕生！－木工作品の魅力－」【第2学年】

(○：指導に生かす評価を行う、◎：全員の学習状況を記録に残す評価)

観点	時	1	2	3	4	5	6	7	8	授業外	評価方法
知識・技能		○ 知	○ 知	◎ 知	○ 技	○ 技	○ 技	◎ 技	○ 知	◎ 知技	観察・作品
思考・判断・表現		○ 発	◎ 発	○ 発	○ 発	○ 鑑	○ 発	○ 発	◎ 鑑	◎ 発	観察・スケッチ等
主体的に学習に取り組む態度		◎ 態表	○ 態表	○ 態表	◎ 態表	○ 態鑑	○ 態表	◎ 態表	◎ 態鑑		観察・対話・スケッチ等

評価補助簿の例

観点	1枚の板から〇〇が誕生！－木工作品の魅力－								
	「知識・技能」			「思考・判断・表現」			「主体的に学習に取り組む態度」		
	評価規準	評価		評価規準	評価		評価規準		評価
2年〇組 氏名	知	技		発	鑑		態表	態鑑	
〇〇 〇〇	A	A	A	B	B	B	A	B	A
△△ △△	A	B	B	B	C	B	C	B	C
□□ □□	C	B	B	C	B	C	B	B	B
●● ●●	B	C	C	C	C	C	A	C	B

評価規準に照らして評価を行った結果が、**知**がB評価、**技**がC評価、総括してC評価となることも考えられる。評価を行う際は、なぜ、B評価ではなくC評価になったのかという根拠が明確となる評価記録を累積することが重要である。題材ごとに評価方法を精選し、作品やペーパーテスト等の結果からだけでなく、表現活動の過程や生徒の考え等を見取れるような評価補助簿の工夫が大切である。

2 学期末、学年末における観点別学習状況の評価及び評価の総括例（P7参照）

学習評価は、生徒の学習状況を評価するとともに、それを踏まえて授業や指導計画を評価し、授業改善や個に応じた指導の充実、指導計画の改善といったPDCAサイクルを確立させることが重要である。

2-1 評価結果のA、B、Cの数を基に総括する場合

各観点とも同じ評価がそろっている場合やAとCが混在する場合、あらかじめ各学校におい規準を決めておく必要がある。「BBB AAC ACC ABC」等

- ・ 学年末における観点ごとの評価の総括については、学期末に総括した評定の結果を基にする方法、または学年末に観点ごとに総括した結果を基にする方法から各学校で選択する。
- ・ 観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA、B、Cの組合せ、又はA、B、Cを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を5段階で表す。